

第 38 期（2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日）
事 業 報 告 書

第 38 期、2024 年度（2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日）は、基調事業としての奨学金助成、国際交流助成等の助成事業を実施し、またその他事業として、機関誌「財団だより第 21 号」の発行と関係先への配布及び財団ホームページの管理・運営を継続、実行いたしました。

財団の財政収支面では、双日㈱から公益目的事業費及び管理費の使途として 1,000 万円の寄付を受けました。

基本財産等の運用においては、4,578 万円の運用収益を確保し寄付金を加えた経常収益合計では 5,578 万円となりました。経常費用は事業費△4,794 万円、管理費△1,421 万円の合計△6,215 万円となり△637 万円の経常収支の減額となりました。

基本財産を形成している債券等の価額は時価評価額の減少により前期末比 9,817 万円減少となり、今期末の基本財産額は 21 億 3,357 万円となりました。

〔Ⅰ〕 今期の事業の概要

a. 助成事業

今年度の助成事業は 2024 年度事業計画に定められた奨学金助成を含む 34 案件に助成を実施し、助成実績総額は、3,893 万円となりました。

以下に、各助成案件の概要を報告いたします。

1) 学術研究助成

・ 今期は応募なし

2) 奨学金助成

1 当財団奨学金制度による外国人私費留学生への奨学金助成 (2,220 万円)

2024 年度も指定 21 大学の中から、奨学生の出身国がなるべく重複しないよう、より多くの国籍出身者から 9 名を選考し 2023 年度からの継続学生 14 名を加えて 23 名に奨学金を支給した。

1) 2024 年度からの奨学生 (新規) 9 名

①	北海道大学	現代日本学プログラム	学部生 (モンゴル)
②	北海道大学	国際広報メディア観光学院	院生 (台湾)
③	千葉大学	園芸研究科	院生 (中国 (内モンゴル))
④	神戸大学	国際協力研究科	院生 (韓国)
⑤	神戸大学	国際文化科学研究科	院生 (フランス)
⑥	岡山大学	環境生命自然科学	院生 (インドネシア)
⑦	岡山大学	グローバル・ディスカバリー	学部生 (ベトナム)
⑧	立命館アジア太平洋大学	国際経営学	学部生 (ネパール)
⑨	立命館アジア太平洋大学	国際経営学	学部生 (インドネシア)

2) 2023 年度からの継続 14 名

① 東北大学	医学系研究科	院生 (シンガポール)
② 国際大学	国際経営学 MBAプログラム	院生 (インド)
③ 国際大学	国際関係学研究科	院生 (ウガンダ)
④ 筑波大学	理工学群 社会工学	学部生 (モンゴル)
⑤ 東京大学	経済学研究科 マネジメント	院生 (中国内モンゴル)
⑥ 東京科学大学	情報理工学院情報工学	院生 (中国)
⑦ 一橋大学	言語社会研究科	院生 (台湾)
⑧ 早稲田大学	アジア太平洋研究科	院生 (マレーシア)
⑨ 慶応義塾大学	経営管理研究科	院生 (台湾)
⑩ 上智大学	地球環境学研究科	院生 (メキシコ)
⑪ 上智大学	グローバル・スタディーズ研究科	院生 (アメリカ)
⑫ 名古屋大学	工学研究科	院生 (マレーシア)
⑬ 京都大学	農学研究科 生物資源経済学	院生 (韓国)
⑭ 大阪大学	人文学研究科	院生 (中国)

3) 国際交流助成 (1,673 万円)

<国際会議等>

2「第 76 回 日米学生会議」 (40 万円)

4 月の春合宿に始まり、防衛大学での「安全保障研修」、現地学生との交流を通じた「韓国自主研修」の日本側メンバーでの事前活動を経て、8 月の本会議はアメリカで実施された。本年度は「回視～共に理解し、明日へと還元する」という総合テーマの下、参加者一同過去の歴史を振り返り、今後のアジア太平洋地域の平和と安定のための議論を交わした。

開催時期： 2024 年 8 月 2 日～24 日 (本会議)

開催地： ロサンゼルス、ニューオリンズ、ワシントン (米国)

参加人員： 日本 36 名、 米国 29 名 計 65 名

3「第 43 期 日中学生会議」 (40 万円)

43 回にして初めての日本、中国の両国開催を実施した。今期の理念は「山川異域 風月同天～よき隣人であるために～」約 3 週間にわたり 5 都市を移動しながら本会議を行った。

分科会のテーマは環境、観光、文化、経済、エンタメで言語的、地理的、心理的障害を越えた相互理解を深め、日中友好促進を目指した。

開催時期： 2024 年 8 月 5 日～12 日 (蘇州・上海) 12 日～25 日 (大阪・広島・東京)

開催地： 中国・日本

参加人員： 日本 27、中国 28 名 計 55 名

4「2024 年度 日中青年会議」 (35 万円)

2009 年創設。本年度のテーマは「Identity」全く異なる文化や情報の中で育ってきた人々との対話の中で参加者は、自らの価値観や育ってきた環境を相対化し、自らのアイデンティティを見つめ直し、本会議では、文化や歴史がどのように自らの価値観や意見を構成しているかを考えると同時に他地域との共通点や差異が、自己認識にどのような影響を及ぼしているかなどにつき議論を行った。龍舞や獅子舞などの文化体験を行い文化交流も実施した。

開催時期： 2024 年 7 月 23 日～29 日

開催地： 香港

参加人員： 日本 18 名、中国 18 名、香港 10 名、台湾 6 名 計 52 名

5「第 39 回 日韓学生会議夏季東京交流大会」

(40 万円)

日本と韓国の学生が国際問題について議論をする国際学生交流プログラム。

今回は分科会を 5 つに分け福祉や、政治、社会、文化などについてそれぞれが学び、分科会ごとの会議を通じて、日韓の比較などを中心に議論した。またフィールドトリップとして国会議事堂や迎賓館にも足を運び、国政や歴史について学ぶことができた。

開催時期： 2024 年 8 月 7 日～16 日

開催地： 東京

参加人員： 日本 12 名、韓国 16 名 計 28 名

6「第 40 回 日韓学生フォーラム」

(40 万円)

1986 年発足。日韓関係からグローバルな社会問題まで幅広い関心層の学生が一堂に会し、直接会話で学術討論・国際交流を行った。また、”Sail through our journey from past to future” のスローガンのもと、日韓間で長年抱えている問題を意見交換し、相互理解を深め、未来志向の日韓関係構築を目指した。フィールドトリップは歴史博物館や北朝鮮との国境付近のパジュを訪問した。

開催時期： 2024 年 8 月 7 日～16 日

開催地： プサン、ソウル(韓国)

参加人員： 日本 15 名、韓国 16 名 計 31 名

7「第 28 期 日本インド学生会議」

(50 万円)

1996 年設立。全く異なる背景・文化で育った日本とインドの学生が相互理解を実現し、一般社会へ還元していくことを目標に毎年行われている。今回はインドから学生が来日し「まちづくり」をテーマに東京と福島を訪問した。安全や防災に配慮した街づくりの課題や解決策を学んだ。東日本大地震・原子力災害伝承館の訪問も行った。日本文化体験として浴衣着付けも体験した。

時期： 2024 年 8 月 21～9 月 2 日

開催地： 東京・福島

参加人員： 日本 11 名、インド 12 名 計 23 名

8「日英学生会議」

(40 万円)

2016 年創立。学生たちが幅広い視野を持って日英間の国際交流の発展に貢献することを目的とし、日英に共通する社会的・政治的課題に焦点を当て議論する会議で、本年度のテーマは世界で最先端に活躍している研究者や活動家の講演を受けながら「ウェルビーイング」をテーマに、SDG や文化交流、環境・社会・企業統治などについて討議を行った。

開催時期： 2024 年 8 月 19 日～29 日

開催地： ロンドン

参加人員： 日本 16 名、英国 8 名 計 24 名

9「日仏学生フォーラム 2024 年度夏季渡仏プログラム」 (30 万円)

日仏の架け橋となる人材育成を目的に 2001 年日仏会館により設立。2018 年から独立し、学生が自主的に活動中。日仏両学生が毎年交互に会議のホストを行う。今回のテーマは「自然と社会」（サブテーマ：芸術と文化、都市化とその史跡、科学と技術、教育と社会）でパリ開催。日本文化を発信するジャパンデイも 8 月 17 日に実施し日本文化を体験してもらう機会を提供した。

開催時期： 2024 年 8 月 10 日～29 日

開催地： パリ

参加人員： 日本 15 名、フランス 16 名 計 31 名

10「日本ルワンダ学生会議 第 20 回本会議」 (50 万円)

2005 年発足。ルワンダを訪問、ルワンダの現状を五感で理解することを渡航の目的の一つとした。

ルワンダの現状を理解する切り口としては、①産業、②平和、③幸せという 3 つのテーマを設定し、これらに関係した場所、企業、団体への訪問とルワンダ人メンバーとのディスカッションを行った。

開催時期： 2024 年 9 月 3 日～17 日

開催地： ルワンダ

参加人員： 日本 7 名、ルワンダ 18 名 計 25 名

11「北東アジア学生ラウンドテーブル 2024」 (30 万円)

2007 年発足の国際教養大学の学生団体。各国学生間の相互理解を達成し、活動の成果を地域社会に発信、維持・拡大することが目的。本開催は日本、モンゴル、韓国、台湾、香港などの大学生（計 32 名）が秋田に集い、今年度は「新しい社会問題に対する若者の基本的な取り組み方と心構えを探る」について議論した。また竿灯、花火などを通じて文化交流会も行った。

開催時期： 2024 年 8 月 4 日～13 日

開催地： 秋田

参加人員： 日本 15 名、韓国 9 名、台湾 8 名 計 32 名

12「模擬国連会議全米大会 42 代日本代表団派遣事業」 (50 万円)

1983 年設立。毎年ニューヨークで開催される模擬国連会議全米大会に日本から大学生の代表団 9～10 名を送る事業。今年度は日本から 9 名が渡米し、提携校の訪問、国連機関や政府代表部の訪問などの後に、全米大会にてイエメン情勢、難民問題、化学兵器使用の防止等昨今の国際情勢を象徴するような問題を討議した。また、ジョージア州ベリー大学とスピーチ講習会、文化交流も行った。

開催時期： 2025 年 3 月 26 日～4 月 12 日

開催地： 米国（ジョージア州ローマ・ニューヨーク州ニューヨーク）

参加人員： 日本 9 名、米国提携校 12 名 計 21 名

<国際交流>

13「MrJ プロジェクト第 22 回 日本語夏季講習サマースクール」 (30 万円)

日本留学を目指す卒業生・在校生を対象とした 1 か月のサマースクール。日本留学試験対策に加えて、日本語で様々な社会問題を考えるアクション型学習も行う。上級生プログラムでは「互いに学び、伝え合い、共に生きる未来を創造していく」ことを目的に、モンゴルの社会問題に目を向け視野を広げる機会も作られている。今年は校外学習としてモンゴルの下水処理場を見学し、モンゴルの下水処理システムを理解すると

もに、社会問題に関する理解を深めた。

開催時期： 2024 年 7 月 29 日～8 月 23 日

開催地： モンゴル・ウランバートル市 新モンゴル小中高一貫学校

参加人員： 活動メンバー24 名(モンゴル 9 名・日本 15 名)、現地参加生徒 267 名

14 「MPJ Youth 2024 年度アフリカ研修」

(40 万円)

2009 年設立。「アフリカを学び、発信する」を活動理念に、双方向的交流と国際理解を実現し、参加者のアフリカ理解の深化を目指す。13 名の日本人学生が 2 週間のセネガル研修に参加し、日本の政府 機関現地事務所・UNICEF, UNESCO 西アフリカ地域事務所などを訪問し文化交流や意見交換を行った。

開催時期： 2025 年 2 月 11 日～25 日

開催地： セネガル

参加人員： 日本側 13 名 セネガル 30 名 計 43 名

15 「コロナ禍におけるモンゴルの助産師卒後教育『産褥期のケア』の向上のための交流事業」 (40 万円)

日本とモンゴルの命の誕生の文化を支えるべく、両国の助産技能サービスと教育の向上を目指した交流継続事業。方法はオンライン(zoom)。今年度は分娩期に最も近い産褥期に焦点を当て、モンゴルにおける産褥期ケアのガイドラインを作成し、退院時に手渡せるパンフレットを作成することとした。4 回のオンライン会議で、日本における産褥期の健康診査や保健指導についての講義や意見交換を行った。

開催時期： 2024 年 7 月 21 日、9 月 1 日、10 月 13 日、2025 年 2 月 16 日

開催地： バーチャル開催 (ZOOM 会議システムを使用)

参加人員： 日本 12 名 (うち外部委員 7 名)、モンゴル助産師会役員 6 名 計 18 名

16 「Global Classmates Summit 2024」

(25 万円)

日本語を学ぶ米国の高校生と英語を学ぶ日本の高校生が、インターネット上で繋がり意見交換し、互いの国や文化への理解を深め、国際的な視野を持つ次世代リーダーを育成する交流プログラム。バーチャル開催の中、「日米関係」「異文化理解」「国際ビジネス」「気候変動」などといったテーマについて自らがスピーカーとなり活発な議論を通じて視野を広げ、考えを深めた。

開催時期： 2024 年 7 月 13 日～8 月 9 日

開催地： バーチャル開催 (ZOOM を使用)

参加人員： 選抜日米生徒 各 8 名 合計 16 名 サミット参加者総数 2,190 名

17 「阪神淡路大震災の教訓の理解を通じた若者の国際交流」

(50 万円)

日本とパプアニューギニアの若者が阪神淡路大震災の教訓を学び返し、防災・減災への意識を高め両国間の絆を強めることによって、自然環境の保護や防災に関する共通尺度の醸成に寄与することが目的。パプアニューギニアの高校生 4 名が、環境防災科のある兵庫県立舞子高校を訪問し、生徒 33 名と交流した。「人と未来防災センター」の視察では震災の概要を理解し、その後の防災・減災の取り組みを学んだ。

開催時期： 2024 年 9 月 13 日～9 月 22 日

開催地： 阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター。兵庫県立舞子高校ほか

参加人員： PNG ソゲリ高校 4 名及び日本での在住者 1 名 日本での受入関係者 55 名

18「Global Talk 2024」

(50 万円)

在日アメリカ大使館の助成対象プログラムとして 2016 年より開始。幅広い層の学生に対し国際人への成長のきっかけを提供することを目的に、アメリカで日本語を学ぶ学生と日本で英語を学ぶ学生をオンラインで結び、様々なトピックについて 30 回のセッションを行った。トピックはジェンダー問題、食品廃棄等 SDGs に関するもの、文化紹介など。日本の高校生～大学院生 102 名、米国 577 名が参加。

交流校訪問プロジェクトも実施し、日本から 5 名の学生がハーバード大学、Brown 大学ほか 4 校で対面交流の機会も持てた。

開催時期： 2024 年 8 月 25 日、2024 年 9 月 1 日～2025 年 4 月 30 日

開催地： オンライン及びハーバード大学、Brown 大学ほか 4 校で対面交流

参加人員： 米国参加 16 校 577 名、日本参加者 102 名(大学院生 6 名、大学 70 名・高校 26 名)

19「Hallo Japan2024/第 15 回日独ユースサミット」

(40 万円)

日独の若者それぞれ 16 名ずつが合宿形式で交流。今年のメインテーマは「よりよく生きるためにできること～日独で考える未来への選択肢～」であり、寿命が延び高齢化社会の中、現在多くの若者が考えている将来の不安や価値観の多様性について、日独の視点で考え、それぞれの人生を見つめ直し、よりよく生きるために何ができるかともに議論し、学び、考えた。

開催時期： 2024 年 8 月 24 日～9 月 1 日

開催地： 東京

参加人員： 日本 16 名、ドイツ 16 名 計 32 名

20「日アジア介護・リハビリテーション学び合いプロジェクト 4 年目～コロナ禍を越えて、高齢者が生き生きと生活できる社会を目指して～」

(50 万円)

タイ、ミャンマー、インドネシア、マレーシアに出向き、地域の高齢者に適切な介護やリハビリテーションの普及活動を実施する団体。今年度はタイ・ポータラーム郡内ヘルスセンターの医師 2 名、看護師 2 名を招聘し、日本の介護・リハビリ施設を見学した。JICA 高齢対策専門家と意見交換会も行った。

開催時期： 2025 年 3 月 11 日～15 日

開催地： 日本（埼玉・東京）

参加人員： 日本 7 名、タイ 4 名 計 11 名

21「日本とネパール青年の交流を通じ、日本文化理解を広めるスタディツアー」

(50 万円)

1998 年設立以来 1 年に 1 回、フィリピン、ネパール、モンゴルなどへのスタディツアーを実施してきた NPO。今年度は日本の学生・社会人 8 名、現地学生 150 名が参加し、ネパール学校を訪問し学生と文化交流を行った。また、山羊農場を訪問し山羊農業の開発「援助の現場を見学した。

開催時期： 2025 年 2 月 24 日～3 月 3 日

開催地： ネパール スワコット村他

参加人員： 日本 8 名、ネパール 150 名 計 158 名

22「日本文化や歴史への学びを通じたイスラエル高校生の異文化理解プログラム」

(50 万円)

イスラエルの高校から学生 15 名と教師 3 名を招き、日本の伝統文化や歴史を学ぶ場を提供する。日本の高校との共同授業、杉原千畝記念館や東京電力福島第一原発周辺の中間貯蔵施設も訪問し復興の現状を学んだ。

開催時期： 2024 年 7 月 29 日～8 月 8 日
開催地： 福島、東京、岐阜
参加人員： 日本 150 名、イスラエル 18 名 計 168 名

23「奨学生交流会」 ※財団主催事業 (198 万円)

財団の奨学生同志及び財団役職員との交流・親睦の為、並びに奨学生ネットワーク作りを目指し、毎年開く奨学生交流会。初日は、双日会社説明会、奨学生と理事長・理事との懇談会、夕方は財団役職員及び双日㈱の関係者も加わっての東京のホテルでの懇親会、2 日目は東京都内の研修バス旅行というプログラムで開催された。今年度は明治神宮にて国際神道研究所職員の講義を受けたほか、浅草で風呂敷体験も行った。

開催時期： 2024 年 9 月 21 日～22 日
開催地： 双日㈱本社・都市センターホテル（東京）・明治神宮、浅草
参加人員： 奨学生 23 名、 役員他関係者 29 名 計 52 名

< 日本文化紹介 >

24「第 49 回ジャパンウィーク 2024 年フランス、コルマル」 (40 万円)

伝統芸能、伝統工芸、美術、音楽、ファッション、生活文化等、幅広いジャンルの日本文化紹介を通じて、日本への理解を深め、市民交流を図り、日本とフランスの友好親善及び相互理解に寄与する。舞台公演、展示、実演、ワークショップ、茶道体験、学校と老人クラブの訪問交流などを実施した。日本から 283 人が参加、コルマル市側の参加見学者は約 1 8 千人だった。

開催時期： 2024 年 11 月 12 日～17 日
開催地： コルマル、パリ（フランス）
参加人員： 日本側 51 団体 280 名、来場者 17,800 人

25「『魂の鎮魂』の為の東欧公演～Where Does the Soul Go? 日本から届ける平和への願い」 (50 万円)

紛争が行われている地域に隣接する東ヨーロッパで「魂の鎮魂のための芸術」である能公演を実施し日本から平和へのメッセージを届ける。ルーマニア、ギリシャ、トルコ、ブルガリアを巡回して公演し、人々の悲しみを癒す力を持つ能楽の魅力を東ヨーロッパの人々に届けた。東洋と西洋のお互いのアイデンティティを尊重し国際相互理解を深めることができた。

開催時期： 2024 年 6 月 28 日～7 月 7 日
開催地： ルーマニア、ギリシャ、トルコ、ブルガリア
参加人員： 日本 16 名、ルーマニア（1,150 名）、トルコ（1,600 人）他

26「日越大学 Japan Exhibition」 (50 万円)

日本とベトナムの友好と結束の象徴として設立された日越大学において、地域社会に広く日本文化を紹介するイベントを実施する。今年は日越大学創立 10 周年記念事業も兼ねて日本語スピーチコンテストや、生け花、折り紙、茶道などのワークショップ等が開催された。

開催時期： 2024 年 10 月 12 日
開催地： ハノイ国家大学ホアラックキャンパス他（ベトナム）
参加人員： 日本 8 名、ベトナム 7 名、来場者 延べ 3 万人

27 「2024 ジャパン・フェスティバル・ウェリントン」 (50 万円)

ニュージーランドにて 8 回目の開催となる。2024 年度はウェリントン市と堺市の姉妹都市 30 周年を記念する年であるためウェリントンと日本との強い交流・経済関係の理解と絆を深めることができた。期間中ジャパンウィークも開催され様々な会場で日本文化、芸術、料理を祝うプログラムが行われた。

開催時期： 2024 年 9 月 14 日～22 日

開催地： ウェリントン市他 (ニュージーランド)

参加人員： 日本 9 名、ニュージーランド 17 名、ウェリントン市民多数

28 「くむんだーを使った日豪文化交流～創造と体感を通じて日本の芸術や文化を共有する。」 (40 万円)

オーストラリアのタスマニア州ホバート市で開催予定の「The Australian Wooden Boat Festival 2025」に日本の伝統的な木造建築技術を用いた組み立て式の木製ジャングルジム「くむんだー」を出展し、ワークショップや体験講座を行う。また、伝統的な木造建築の技術の紹介や体験も行った。

開催時期： 2025 年 2 月 1 日～17 日

開催地： キャンベラ、ホバート、シドニー (オーストラリア)

参加人員： 日本 7 名、オーストラリア約 2,000 名

29 「JACSO 海外プロジェクト 2024」 (25 万円)

森羅万象、宇宙、能の世界観である幽玄の世界を能と現代アートで表現し幻想的な舞台で演出する。ローマにて能・狂言の公演だけでなく、能・狂言・お囃子に関するレクチャー・デモ也大いに興味を持って鑑賞いただいた。野村萬斎などが出演し日本文化の存在感を高めることが出来た。

開催時期： 2024 年 11 月 4 日～5 日

開催地： ローマ (イタリア)

参加人員： 日本 6 名、イタリア 150 名 計 156 名

<日本語普及事業>

30 「Japanese Language Inspired Vision and Engagement Talk 2024」 (30 万円)

アメリカで日本語を学習している大学生・大学院生および中高生を対象にした日本語スピーチコンテストで今回 10 回目。全米から応募した学生 55 名から選ばれた参加者 15 名がプレゼンを行い、最優秀者は日本での夏期講習に参加できる航空券と生活費が贈られた。

開催時期： 2024 年 11 月 13 日

開催地： ジョージワシントン大学にて対面形式開催

参加人員： 全米 8 州 応募高校生・大学生 55 名 大会当日プレゼンファイナリスト 15 名
最終選考審査員 5 名 運営委員 5 名 学生ボランティア 43 名 観客 94 名

31 「32th National Japan Bowl」 (40 万円)

全米各地で日本語を学んでいる高校生が、日本語能力のみならず日本の文化・習慣・歴史・地理・時事・日米関係など、幅広い分野について競い合うクイズボウルの全米大会。日本語学習を楽しみ、日本への関心をさらに高め、大学においても日本語学習を継続してもらうことが目的で、120 名の高校生が参加した。

開催時期： 2024 年 4 月 18 日～19 日

開催地： メリーランド大学 (米国)

参加人員： 米国 24 高校、44 チーム、120 名の高校生

32 「タイビン地域における日本語学習者増加プロジェクト(2024 年度)」 (50 万円)

2016 年以来タイビン医療短期大学で留学・就職支援として日本語教育支援を実施してきた団体。「タイビン医療短期大学日本語センター」の活動として 2023 年度より 3 年間実施予定で 2 年目になる。ベトナムの地方都市タイビン地域で、小学生から社会人までを対象に、日本語を楽しく学びながら日本文化に触れ、将来の親日家を育成することを目指す。日本語教室や日本文化体験イベントとして浴衣体験を実施した。

開催時期： 2024 年 4 月 7 日～2024 年 12 月 15 日

開催地： ベトナム タイビン地域

参加人員： 日本語学習受講登録者 113 名、日本文化体験イベント 52 名

33 「ベトナム人大学生によるベトナムの子供たちへのための日本語学び場づくり」 (30 万円)

ドンア大学で日本語講師を目指す学生およびダナン市の児童養護施設の児童生徒を対象に、日本語を教える仕組みを構築した。学生には日本語教育実習の場を、児童生徒には無料で学ぶ機会を提供し、日越 国際交流の一端を担った。現地日本語チューターを育成し、経済的に恵まれない若年層への日本語教育の裾野を広げることが出来た。

開催時期： 2024 年 7 月 1 日～2025 年 3 月 22 日

開催地： ベトナム・ダナン市 ドンア大学他

参加人員： ドンア大学日本語学生 15 名 ベトナム人講師 2 名 日本人講師等関係者 9 名他

34 「ウクライナ学生支援会復興支援プロジェクト」 (200 万円)

2022 年 4 月から受け入れている 104 名のウクライナ避難学生に対する就職・進学・自立支援を継続中。2024 年 8 月からはウクライナ復興人材プログラムとして 2 期生 10 名を受け入れた。日本の戦後復興や自然災害の復興の経験を学ぶと同時に、日本語の習得を継続して行った。

JICA 主催のジョブマッチングイベントへの参加や、都市型農業体験、神戸復興フィールドワークにも参加。岸和田、京都での日本文化体験も行った。

開催時期： 2024 年 8 月～2025 年 3 月 31 日

開催地： 東京、神戸、岸和田、京都他

参加人員： 日本人現地参加者 22 名、ウクライナ 10 名 計 32 名

b. その他の事業

「その他の事業」として、次の 2 事業を行った。 合計 202 万円

1. 財団ホームページの更新・運営 (47 万円)

前年度に引き続き、外部に対する情報発信ツールとしての財団ホームページの更新・維持・運営を行った。

2. 「財団だより - 第 21 号」 の発行 (155 万円)

2024 年 11 月「財団だより - 第 21 号」を発行し、関係省庁、他財団ほか助成先、財団関係者、双日株式会社の本社・支社・海外店及び関係会社に配付し、2023 年度の事業報告及び財団の活動の PR を行った。

[Ⅱ] 管理・庶務事項

2024 年	4 月 1 日	2024 年度奨学生募集を開始
	5 月 7 日～21 日	会計監査人による決算期末監査及び監査報告会
	5 月 24 日	第 107 回選考委員会を紙上開催 ・ 2024 年度奨学生を選考・2024 年度ウクライナ学生支援会による復興支援プロジェクト助成承認
	6 月 12 日	第 116 回理事会を開催 ・ 2023 年度事業報告書・決算報告書承認 ・ ウクライナ学生支援会による復興支援プロジェクト助成承認 ・ 公益目的事業実施準備基金取崩承認 ・ 2024 年度奨学生承認 ・ 選考委員会規程（報酬等）改定承認 ・ 定時評議員会開催決議・事務局長交代承認・選考委員選任承認 ・ 理事長・専務理事の職務執行状況報告
	6 月 25 日	2023 年度事業報告書並びに決算報告書を行政府「内閣府」に提出
	6 月 28 日	第 82 回評議員会 ・ 2023 年度事業及び決算を報告
	9 月 20～21 日	「財団奨学生交流会」を開催
	11 月 28 日	機関誌「財団だより」（第 21 号）を発行
	11 月 1 日～12 月 19 日	2025 年度国際交流助成案件の申請受付
2025 年	2 月 14 日	第 108 回選考委員会を開催 ・ 2025 年度助成案件を選考
	3 月 3 日	あずさ監査法人による期中監査を実施
	3 月 21 日	第 117 回理事会を開催 ・ 2025 年度助成案件及び事業計画案を承認 ・ 2024 年度決算見通し、2025 年度収支予算案を承認 ・ 2024 年度公益事業実施準備基金繰入承認 ・ 理事長・専務理事の職務執行状況の報告
	3 月 27 日	・ 2025 年度事業計画書及び収支予算書を内閣府に提出

以 上